

天遊 Ten You

大阪教育大学広報誌

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY
PUBLIC INFORMATION MAGAZINE

2022 特別号

Athlete's View

TOPICS

附属学校園ウォッチ

特集
1

内定者座談会 教員編／企業・公務員編

特集
2

附属学校園で働く卒業生たち

特集
3

リモート課外活動



YouTube OKUChannel

インタビューやイベントの様子など動画を随時更新中!
チャンネル登録してね!



国立大学法人
大阪教育大学

内定者 座談会 教員編

内定が決まった
3人が語る、
教員採用試験対策と
コロナ事情。



きむら さとし
木村 哲士

所 属：小中教育専攻社会科教育コース
内定先：大阪府小学校教諭・中学校教諭（社会科）※
※大阪府「小中いきいき連携」での採用

ふくい はるか
福井 陽香

所 属：中等教育専攻音楽教育コース
内定先：大阪府豊能地区中学校教諭（音楽）

もりもと こうた
森本 洸太

所 属：中等教育専攻英語教育コース
内定先：兵庫県高等学校教諭（英語）

かれたときは確実に答えられるように一人で振り返ることがおススメ。そのおかげで、

本番でも落ち着いて答えられました。

森本 勉強は、配点の割合で勉強時間を配分して、かつ得意な科目よりも苦手な科目に時間を割いて、なるべく効率的に取り組んでいました。英語については、大学入試の過去問を解いたり、他の都道府県の過去問を解いたりしながら、自分の中で少しずつ解き方を上げていきました。面接練習では、「一緒に練習している学生の受け答えを聞いて、「その言い回し使おう」とか「自分はこの要素を加えよう」というように、色々な人から学んでいました。

福井 やってた、やってた。色んな専攻の人と一緒にいるから、他の人の発言とか聞いていると、「そういう考え方もあるんだ」ってすごく参考になりました。

森本 それぞれの専攻によって言えることが違うから、自分に足りていない知識とかにも気づけますよね。色んな人の意見を聞くことで、自分の言いたいことも推敲できた感じです。

木村 私は、小学校から今まで頑張ってきたことなど自分の半生を振り返るところから始まり、友達や家族に自分の強みや弱みを聞いて、自分を外から捉え直すような自己分析をしました。これは、本当に早いうちからは非やってみてください。社会に出てから、教員になってから、社会や子どもたちに還元できる自分の強みを知ること

も繋がります。

Q コロナ禍の教採ってどうなん？

木村 対策を始めるときから教採本番まで、ずっとコロナ禍だったけど、何か印象に残っていることはありますか？ 私はあえて言えば、最初の面接練習で話している最中にマスクがずれることが気になって、面接に適したマスク選びをしたことですね。

福井 え！すご！！おススメのマスクは？
木村 人それぞれ話し方や顔の輪郭も違うので、ぜひ自分だけの面接用マスクを選び抜いてほしいです。一方で、「マスクを外してもいいですよ」と言われる場合もあるので、面接練習では、マスクありとマスクなしの両方の練習をした方がいいですね。

森本 それで言うと私は、マスクを取ってフェイスシールドを着けた状態で、英語でスピーチした試験が印象的です。今までフェイスシールドを着けて練習したことがなかったから、マスクなしで表情を作ったり、英語でスピーチしたりするのに戸惑いました。

福井 わかる。私もマスクを外して音楽の実技を受けましたが、当日着ていたスーツにポケットがなくて「どこに入れておこう」となって、慌ててシャツとスカートの間に差し込みました。後輩たちには、取ったマスクをどうするかまで考えておくよう伝えたいです。あとはコロナ禍で、大学で友達に会

う機会が少なかったから、LINEやメールで情報共有するのが大変で、面接練習もZoomでしていたことも印象的です。

Q どうやって息抜きしてた？

木村 教採本番までかなり長い道のりだけど、モチベーション維持や息抜きとかってどうしていましたか？ 私は、行き詰まったときはYouTubeをよく見ていました。同年代の人が、教採や就活で使う自分の一分間自己PRを載せてくれていて、今まで見えてなかった、自分の強みや良い言い回しを収集していました。もちろん、全く関係のない動画を見ているときもあるけど。

森本 YouTubeには、教採を受けた人や実任教員だった人が結構動画を載せてくれてますよね。同じように勉強で苦労している話とか、逆に教員になったときにこんな楽しさがあるよっていう話を聞いて、次の勉強や練習の活力にしたり、気持ちが高まりました。

木村 あとは、悩んだり行き詰まったりしたら、一人で考えずに人と話す。まずは行動するっていう意味でも、とりあえず大学に来る。

福井 とりあえず大学に来るのは、本当に大事。
森本 大教は先生になりたい人がいっぱいいるから、大学に来ると初めて会う同年代の人でも、同じように頑張っているんだなって思います。みんな一緒に『チーム大教』で

Q 教員採用試験対策を始めた時期

森本 高校の英語の教員採用試験（以下、教採）の受験に、英検2級以上の資格が必要だったので、英検準1級の勉強を3回生の1月頃に始めました。それをきっかけに、教採の教職教養や一般教養の勉強も同時並行で進めていきました。

福井 私は、サークルを引退するタイミングで参考書を買って、3回生の12月ぐらいに本格的に始めました。音楽の実技試験は、範囲が広いことを見据えて、早めに取り掛かりました。あと、一般教養に関わってくる数学とかも、その時期にこれからやり直していました。

木村 私は、大学推薦で教採を受けようとしていたので、3回生の3月の推薦者選考に向けて1月頃から、小論文を書く練習と推薦面接の対策を始めました。推薦面接は受ける人が少なくて、大学推薦で教採に合格している先輩に話を聞くところから始めました。

Q おススメの勉強、練習方法

福井 勉強では、まずは参考書を見て何が出るかの傾向を考察してから、何を勉強する必要があるかを絞るようにしました。例えば、教職教養の中でも心理と教育史はあまり出ないとか、自分なりに整理してから取り掛かりましたね。あとは、面接練習で聞かれた内容はノートにまとめて、次に聞



教採に立方向かっているんだなって感じたら、もうちょっとやってみようって気持ちになれました。

福井 私も筆記に面接に実技に、って根詰めていたらしんどくなるから、毎日時間を決めて、空いた時間には趣味のダンスをするようにしていました。試験にはないけどフルートも。あとは、周りの友達や家族に話を聞いてもらったり、一緒に教採に向けて勉強している友達と話したりすると、また頑張ろうって気持ちになれるから、本当にコミュニケーションは大事。コロナ禍では特にそう思います。



Q 面接試験について

木村 皆さんは面接試験で回答に困った質問とか、印象に残っている質問はありますか？

福井 試験本番じゃないんですけど、練習で「道徳で多様性を育てたい」という発言をした際に、「多様性を育てるために、道徳の教材で例えば何をしますか」って聞かれて、道徳の教科書を全く覚えてなかったし、具体的な教材まで考えたことがなかったから全く答えられませんでした。そこで、もっと色んな分野を勉強すべきだなって気づく

良いきっかけになりました。

森本 私は、場面指導のときの追質問が印象的でした。校外での生徒の行動に対するクレームがあったときの指導で、練習どおりに答えることができたんですが、そこで「自分たちはそんなつもりがなかった」と生徒が主張したらどうするかという追質問があったときは焦りました。でも、面接練習でキャリア支援センターの先生に言われたことを思い出して、「生徒の気持ちに寄り添うことを意識して考えた自分の対応を答えました。面接官の表情は終始変わらず、手ごたえを感じないこともありましたが、自分を信じ抜きました。」

福井 それを聞いて思い出しましたが、ロールプレイでも、面接官が保護者役になって教員役を問い詰めるようなパターンもあるらしいから、めげないことが大切だなって思います。

木村 自分の答えたことに「これできなかったらどうするの」とか、「こんなときはどうするの」と矢継ぎ早に聞かれたら答えに迷うことがありますよね。

森本 絶対ここは大事にする、という自分の芯がぶれなかったら、迷わずに伝えられるかなって、本番で思えたかな。

福井 あとは表情ですよ。困るような質問をされたときでも、それを表情に出さない。自信を持って答えることができれば大丈夫。

木村 私は「グローバル化が」と答えた際に、「じゃあ、グローバル化と国際化の違い

は何ですか？」と聞かれて、自分の中で言葉の定義が曖昧で勉強不足だったことを痛感しました。自分がこう答えようと考えていることは、その言葉の定義や、似た言葉の意味を確認した方がいいです。面接は事前の準備が一番大事で、成功の9割9分を握っていますよね。

Q キャリア支援センターを活用せよ！

木村 皆さんは、キャリア支援センターを活用しましたか？ 私は書類の提出期限のこととかで不安になるたびに、相談に行っていました。

福井 木村さんが誰よりも相談に行っていて「これ大丈夫ですか」「あれいけてますか」って聞いて、職員さんが「大丈夫やって！」と言ってくれているのを見ていました(笑)

木村 とても親身になって話を聞いて、色々教えてくださるから、活用しないともったいないなって思います。

森本 面接練習の機会もたくさん作ってくれるから、行かなきゃ損ですよ。試験の1週間前に、キャリア支援センターの先生方が毎日練習に付き合ってくださいって、喋り方や、話の展開の仕方など、事細かに教えてくれました。そのおかげで、あまり緊張せずに本番を迎えることができました。経験を積んでいる先生方がいらつしやるから、本当にサポート手厚いな、という印象です。

福井 私は、受験する自治体ごとに学生同

内定者 座談会 企業・公務員編

内定が決まった

3人が語る、

就活と

コロナ事情。



おはらりえ
小原 利恵

所属:グローバル教育専攻
英語コミュニケーションコース
内定先:市役所事務職

たのあすか
田野 明日香

所属:芸術表現専攻美術表現コース
内定先:プラスチック総合メーカー

きりたに まな
桐谷 茉那

所属:教育心理科学専攻
内定先:市役所心理職

Q コロナ禍の就活で印象に残っていること

田野 オンラインの面接や説明会が多い印象でしたが、現地に足を運ぶ必要がないため、遠方の企業でも受けやすくなり、企業選びの幅が広がるのが利点だと思います。

桐谷 私、移動時間が要らないので、その時間で色々な説明会に参加できる点は良かったなと思います。一方で、就活している人と大学で情報交換することが全然できず、自分の情報収集力だけに頼らないといけないことがすごく不安で、孤独感が強かったですね。

小原 わかります。試験勉強や面接練習では、人と会う機会がすごく少なく、寂しさを感じていて、それがつらかったです。本番の公務員試験では、面接もほぼ対面だったので、そんなにコロナ前と変わってなかったかな。

桐谷 面接のときに大変だと思ったことは、面接官の指示で思いがけずマスクを外すことになったときですね。メイクが崩れていたり、口紅を塗っていなかったり、そんなときは失敗したなと思いました。

田野 私が受けたところはオンライン面接が多かったです。オンライン面接を受けるにあたって、WEBカメラの前の顔を照らすライトは買っておいた方がいいですよ。

小原 確かに、ライトは大切。

桐谷 顔の明るさで印象変わりますよね。画面上で、暗くて顔が見えてない人を見かけると、「もったいない!!」ってなっちゃいます。



士で教採対策を行う「教採カフェ」で、よくキャリア支援センターを使っていました。豊能地区は集団面接があるので、教採カフェのメンバーでとにかくたくさん練習しよう決めて、キャリア支援センターに相談したら、時間と場所と先生を調整してくれて、とても親切にしてもらいました。

木村 自治体ごとの説明会に行ったときに、その自治体を受験する学生同士を繋いでくれることが本当にありがたいですよ。同じ目標に向かう仲間が教採カフェにいて、常に一緒に面接練習ができたことが、教採合格に生きたなと思います。



Q 内定先に決めた理由

田野 就活のタイミングを逃すと地元大阪を出るチャンスはないかなと思って、大阪以外のメーカーを受けました。物を作っている会社って、私にとってはやっていることが明確でわかりやすく、安心できる気がしたんです。

小原 最初からメーカーで探して受けていたんですか。

田野 最初は色々な業種を見ていたんですが、自分たちで何かを作るって「なんかいいなあ」と感じたので、自分の感覚を信じて決

Q 面接について

田野 私は集団討論をしたことがないんですけど、どういう内容なんですか。

小原 司会やタイムキーパーなどの役割を決めて、あるテーマに沿って議論を進めていくイメージ。

田野 「無人島に一つ持っていくなら何」みたいな？

小原 そんなおもしろい質問はなかったですね(笑)公務員は、「社会の抱えるある問題を解決するために、どという施策を作れ

めました。小原さんは、なんでその自治体にしたんですか？

小原 私は、3回生の夏に4日間参加したインターンシップが決め手でした。そこではフィールドワークもたくさんあって、周りの人にすごくよくしていただいて、楽しかったから、ここを受けようと決めました。

田野 3回生の夏の時点で就職を意識してインターンに参加していたんですね。実際にそこで働いている人も知ることができるといいですね。桐谷さんは？

桐谷 私は、自分がずっと育ってきた地元という点を選びました。高校・大学は地元を離れていたのですが、外から見たときに今まで見えなかった魅力が見えて、地元がより好きになったことがきっかけです。

Q 勉強方法、練習方法

小原 私は公務員試験の勉強を独学で始めたんですけど、その勉強方法が合っていないか不安で、3回生の10月から通信講座を始めました。法律や経済学は、大学の授業で全然受けていなかったので間に合うか不安でした。

桐谷 私は、買ってきたSPOのテキスト1冊を、時間を計りながら何周もしていました。あと、心理職の専門知識を問うテストは、自分が読みやすいと思うテキストをひたすらに読み込んで受けました。

田野 私は面接が主だったので、志望動機や自己PRを考えたり、エントリーシートを書いたりするのがほとんどでした。面接は、

ばいいですか」のようなテーマが多かったです。

桐谷 私が受けた集団討論は、一つの条例が提示されて、「この条例を守らない人がいるのが問題視されています。どうすれば改善できるか、具体的に考えてください」という内容でした。そのときは、「あえて司会は決めずに始めてください」と言われて、フリーな形態に驚きました。

田野 おもしろそう。

桐谷 逆に企業の集団討論では、社員になつたつもりで会社の業績を上げるようなプロジェクトを考える形態が多い印象でした。提案内容を審査されているというよりは、話し合う力を審査されていると感じたので、とにかくみんなで相談して、結論を導き出せるよう努めました。

田野 何か在学中に挑戦しておけばよかったな、と思ったものがありますか？

桐谷 私はボランティアです。公務員は利益を重視する世界じゃないと思うので、それに近い精神はボランティアで養われたんじゃないかなって思います。私がやっていたインターンもアルバイトも、利益を念頭に置く世界だったので、公共の立場で働く感覚が新鮮に感じてしまいました。

Q 就活中のモチベーション維持

田野 就活中に「もう無理!!」ってなることもあったと思うんですけど、皆さんどうやってモチベーションを維持していましたか？

桐谷 私は、説明会などの気軽に欠席でき

公務員や企業をめざしている同じコースの友達と一緒に、Zoomで練習していましたね。

小原 私は公務員カフェに入っていたので、公務員カフェの子たちと圧迫面接の練習をしていました。

田野 カフェ？公務員カフェがあるんですか。

小原 キャリア支援センターがLINEを活用して、同じ自治体の公務員志望の学生同士を繋げてくれるんです。私は就活を始めた当初は入っていなかったんですが、キャリア支援センターの方が「今からでも入れるよ」と声をかけてくださったんです。情報交換や面接練習も一緒にできるので、本当に入ってよかったです。

Q キャリア支援センターの活用方法

田野 私は、3回生の3月に就活解禁って知ったときに就活サイトを見たら、その時点で「大手は2週間後にエントリーシート締め切り!」って驚いて、自分の就活スタートが本当に遅れているんだなって気づきました。困り果ててキャリア支援センターに行ったら、職員の方が「時間あるから話聞くよ」って声をかけてくれたんです。そのときに就活に関する本を借りて、返すときにまた話を聞いてもらって、その繰り返し。あるときキャリア支援センターに行つて本当によかったです。

桐谷 すごくいい話。

田野 その後は、就職していた兄に就活のノウハウを伝授してもらって、キャリア支援センターでエントリーシートの最終確認をし

ない予定をたくさん入れて、その忙しさで余計なことを考えないようにしていました。勉強は、わからないところがあっても、2周目でわかったらいいか、と気楽に取り組むのもコツですね。

小原 私は自治体研究も兼ねて、実際に受験する自治体に赴いてリフレッシュしていました。

田野 受験する自治体を肌で感じるために？

小原 そうです。その自治体には区がたくさんあったので、それぞれを巡っていました。

田野 すごくいい!!その熱意があれば、内定をもらったのも納得ですね。私は息抜きとは少し違いますが、受ける企業の数で勝負するんじゃないくて、ここに行くぞって決めて、数社に絞って研究し、エントリーシートを提出していました。

桐谷 変に手を広げないことも大切ですね。

Q 先輩へのメッセージ

小原 筆記や専門試験があるところは本当に大変だと思うので、志望先が決まっているなら、なるべく早く対策を始めた方がいいです。私は勉強が間に合わずに、もっと科目数の少ない自治体を受けようかと迷ったこともありました。でも、「後悔しないようにした方がいい」ってキャリア支援センターの先生に言っていたので、もう少し頑張ろうと決意して、第一志望の自治体を受験して合格できました。周りに圧倒されて諦めるんじゃないくて、やり抜くことも大切かなって思います。

てもらっていました。二人はどのように活用していましたか？

小原 面接練習、グループワーク練習、筆記試験の勉強方法を教えてもらっていました。あとは公務員カフェで練習して、何かつまずくたびにキャリア支援センターに相談して、言えればメンタルサポートですね。

桐谷 私、面接と集団討論の練習で活用して、ときどき面談で現状を報告したり、一緒に現状を整理してもらったり、「次の面接でこんなこと聞かれるらしいんですけど、何を喋ったらいいんですかね」みたいな相談まで乗ってもらったり、使い倒していました。



桐谷 私は、大学で学べることは積極的に学びに行つた方がいいと思います。必修じゃない専門科目の授業で学んだ内容が、実際に専門試験や面接の内容に関わってきたので、大学で学べることはしっかり吸収すること、結局は自分の底力になるんだろうなっと思っています。

田野 私、大学の授業のグループ活動でこういう役割を担いました、といった具体的なエピソードをよく活用しました。

桐谷 面接では、成果や規模の大きさがなくて、「あなたはそこで何をしたの?」というところが聞かれるので、自分の中でしっかりまとめておくといいです。

田野 私は就活では、周りに相談することが大事だと思います。わからないことがあれば、キャリア支援センターや、ゼミの先生、友達に聞いてみてください。早くから就活を始めている人もいますので、そういう人に色々聞けばいいと思います。あとは、やりたいことが明確にある子は、とにかく早くから動いた方がいいと思う。それがそのままアドバンテージになります。

桐谷 あと、イメージも大事。自分がその職場で働いている姿をイメージできるか、仮にその仕事をしていて嫌なことがあっても「でもやりたくて選んだ仕事だし」と自分の中で揺るがない魅力があるか。そういう、ちょっとリアルな考え方ができると、地に足のついた就活ができると思います。



YouTube
OKU Channel
インタビュー動画が
見られます。

天王寺・池田・平野地区にある
附属学校園で、教師として活躍する
4人の卒業生に話を聞きました

附属学校園で働く卒業生たち

インタビュー
Interview



人との関わりが
自分の世界を広げる

橋之爪 美砂

[平野地区]
附属幼稚園主幹教諭(3歳児担当)
幼稚園課程 1994年卒

Q1 どんな学生生活でしたか？
授業以外では、大学から始めた合気道に打ち込んでいました。そこでの友人から人間関係が広がり、色んな専攻の友人と関わって、自分の専門以外にも目を向けるようにしていました。

Q2 学生時代のこと、教師に生きていくことは？
子どもと話すときに、その子が好きなことを自分が少しでも知っていると、目を輝かせてくれるんですね。そんなときに、アルバイトや、他の専攻の学生との関わりで知った、教育とは直接関係のないことも保育に生きていくと感ずることがあります。

Q3 教師として心がけていることは？
身体的にも、精神的にも子どもに目線を合わせることを意識し、正しいことを一方的に教えるのではなく、子どもの気持ちに寄り添って一緒に考えるようにしています。

Q4 今後取り組んでいきたいことは？
附属幼稚園を、今いる子どもたちや、まだ見ぬ子どもたちにとっても、さらには教師や



実習生にとっても、良い学びの場所にしていきたいと思っています。また、そんな幼稚園の魅力発信して、社会からより必要とされる幼稚園にしていきたいです。

Q5 大阪教育大学の魅力は？
様々な専攻があり、あらゆる校種をめざす人がいて、同じ学部内には教職以外の職業をめざす学生も一緒に学んでいる。さらには、5校種取り揃えた附属学校園がある。そんな、自分の世界を広げながら、刺激し合える仲間とともに、教育現場と隣り合わせで学ぶことができる環境が、最大の魅力だと思います。

Q1 どんな学生生活でしたか？
とにかく楽しかったです。海外を始め色々なところにサークルの友人と出かけたことが良い思い出です。3回生から所属したゼミでは、現場の実践を見に行く機会をたくさん頂き、先生方の生の声を聞けたことで、どんな教師になりたいか具体的に考えることができました。

Q2 学生時代のこと、教師に生きていくことは？
大教では教師の友人がたくさんできるので、卒業後も指導方法や悩みの相談ができます。同じ志を持った仲間ができたことが、大教に行きつて一番よかったことですね。

Q3 現在力を入れていることは？
去年と今年に「探究コーディネーター」を担当させてもらっていて、「探究活動」について、学年全体の調整役を担っています。担当している2年生では、大学のゼミ活動に見立てて、生徒が主体的に課題を設定し、情報の収集と整理、分析や考察を行い、自分の考えをまとめて発表する活動に取り組んでいます。



Q4 今後取り組んでいきたいことは？
今後、教科教育にも探究活動を本格的に取り入れていく必要がある中で、「探究コーディネーター」での経験をもとに、積極的に挑戦していきたいです。

Q5 教師として心がけていることは？
生徒が自ら考えて行動できるような資質・能力を育成することが、高校教員の役割だと思っています。生徒が自分でここまでのごとができるかを判断し、どのような指導をすることで生徒が更にステップアップできるかを見極めるように努めています。



神内 千波

[池田地区]
附属高等学校池田校舎教諭(社会科担当)
大阪府教育委員会との交流
小学校教員養成課程人文・社会系社会専攻 2013年卒
大学院教育学研究科社会科教育専攻 2015年卒



子どもたちに
考え抜く経験を

藤井 義光

[平野地区]
附属平野小学校(国語担当)
大阪市教育委員会との交流
小学校教員養成課程人文・社会系国語専攻 2006年卒
大学院教育学研究科国語教育専攻 2009年卒

Q1 どんな学生生活でしたか？
国語は元々苦手な教科だったので、2回生時の色々な国語の指導法に挑戦する授業で、一転して大好きな教科になりました。また、ゼミ活動では、国語特有の答えが一つではない学習の「追究する面白さ」を教えていただき、そこで自分なりの考えや、考察の仕方、考え抜く力を養いました。

Q2 学生時代のこと、教師に生きていくことは？
仲間との繋がりが一番ですね。国語教育における答えが一つではない学習について、友人と夜遅くまで語り合いながら考えを深めていった経験は、今の教育実践に繋がっていると思います。

Q3 現在力を入れていることは？
日常や社会につながる資質・能力を養えるような「物語」の学習に取り組んでいます。小説家やドラマ制作、宣伝広告など、物語への色々な関わり方がある中で、子どもたちが自身が物語にどのようなアプローチをとりたいかを考えることを起点に、学びを広げて



いきたいと考えています。その中で、子どもたちには自分で考え、人の考えと比べながら、最後まで考え抜く力を身に付けてほしいです。

Q4 今後取り組んでいきたいことは？
子どもたちと一緒に学びあい、先生方とも学びあい、海外の教育実践や最新の教育動向も学びながら、探究を続けていきたいと思っています。

Q5 教師として心がけていることは？
子どもの話を想いを引き出して、子どもの豊かな発想を一緒に楽しめたらと思っています。そうすることで、子どもと一緒に授業を作り上げていくように意識しています。

Q1 学生時代のこと、教師に生きていくことは？
バックパックで海外を訪れたときの、ちゃんとした言葉じゃなくても、「コミュニケーション」が成り立った経験は大きかったですね。言葉うて誰かが決めたものでもなくて、人と人との間で成立していくものだと思えたとき、言葉を広い意味で受け止められるようになりました。

Q2 現在力を入れていることは？
遊びのような感覚で、あらゆる角度から言葉に触れてもらって、自分なりの言葉の価値」を持ってもらえるような授業づくりに取り組んでいます。最近では、言葉を使ったカードゲームのルールをグループで考えて、カードも自分たちで作り、他のグループにも遊んでもらう、なんてこともしました。

Q3 今後取り組んでいきたいことは？
パソコンを使って作曲するDTM(Desktop Music)を起点に、歌詞を書いたり、韻を踏んだり、それをリズムに乗せたり、みたいな遊び感覚で言葉にのめり込んでいる活動を考えています。



Q4 教師として心がけていることは？
教師一人が教えらるることって限られていると思うので、僕からは仕組みを提案して、それを子どもたちが広げて、その過程で学び合えるような授業をできればと思います。子どもの発想で正直予測不可能で、自分たちでどこまでも学びを広げていけるんです。

Q5 大阪教育大学の魅力は？
11の附属学校園も含めて、教育現場にとても近い大学ですので、在学中に様々な教職経験をえられることだと思います。だから、もっとその環境を活用して欲しいな、と思います。



福西 昌平

[天王寺地区]
附属天王寺中学校教諭(国語担当)
小学校教員養成課程人文・社会系国語専攻 2010年卒
大学院教育学研究科国語教育専攻 2012年卒



大学祭準備会

委員長・小原 瑠菜さん
(教育心理科学専攻2回生)
活動日：毎週水曜日
活動人数：37人(2022年1月時点)

オンラインツールを駆使した大学祭を開催

今年度の大学祭、通称「神霜祭」は、音楽系サークル4団体によるYouTubeでのLIVE配信や、部・サークルなど計21団体が作成した活動紹介動画の配信、並びに特設サイトでの参加団体の活動紹介等、**オンラインツールを最大限活用した、コロナ禍ならではの大学祭**となりました。なお、2日間のLIVE配信では、累計で2,700回の再生がありました。



ライブ配信で
演奏解放！

硬式野球部

広報担当・向井 太郎さん
(グローバル教育専攻多文化リテラシーコース2回生)
活動日：毎週火・水曜日・金～日曜日
活動人数：35人(2022年1月時点)

動画を使ったフォームコーチング

監督は学外勤務で、かつコロナ禍の影響で毎回の練習に来ることが難しい状況でしたが、**プレーの動画を監督に送り、動画や文章でコーチング**を受けていました。チーム全体の技術力の向上はもちろん、チームを全国大会に2度も導いた経験のある指導者からのコーチングで、モチベーション向上にも繋がりました。



オンラインで
コーチングが
可能！

YOSAKOIソーランサークル凜憧

代表・岸田 そよかさん
(グローバル教育専攻多文化リテラシーコース2回生)
活動日：毎週水曜日・土曜日
活動人数：21人(2022年1月時点)

オンライン演舞レッスン

Zoomを活用して踊りの練習をしています。**ブレイクアウトルーム機能を使って、各々がもっと練習したい曲のパートに分かれて練習**することで、一人の課題を克服したり、得意なところを伸ばしたり、充実した練習ができています。



ポーズの
確認

オンラインを
最大限に活用！

リモート 課外活動

オンラインツールを
駆使して、
コロナ禍でも
工夫を凝らして活動していた
課外活動団体を
紹介します。

男子サッカー部

広報班メンバー・肥後 輝世紀さん
(小中教育専攻英語教育コース3回生)
活動日：毎週火～日曜日
活動人数：47人(2022年1月時点)

STAY HOMEならではの紹介動画を制作

コロナ禍では、活動停止や限られた部員での練習など「全体」での活動が難しい状況でした。そこで、チームの一体感を得るべく、「**部員に聞いてみた**」と題した動画を各自で撮影し、部員から見た男子サッカー部の魅力をSNSで発信しました。これにより、部員全員が部のことを見つめ直すことができ、さらに外部の方々にも部の魅力を知ってもらうことができました。



チームワークを
着実に強化！



体育会

広報部長・扇 颯さん
(小中教育専攻国語教育コース3回生)
活動日：月1回の代表者会議・担当業務ごとの活動日
活動人数：体育会に所属する全学生

卒業生オリンピックにリモート取材

本学の卒業生であり、東京オリンピック大会の女子ハンドボール日本代表である板野陽選手、堀川真奈選手に、リモート取材を行いました。特別な経験で得た選手ならではの想いと、在学期間中の学生目線での想いを伺うことができました。卒業生の活躍を画面越しながらも直接聴くことができ、とても励みになりました！



インタビュー記事は、2022年3月発行の
体育会広報誌「大教スポーツ」に掲載

合気道部

主将・山口 泰尚さん
(小学校教育専攻昼間コース3回生)
活動日：毎週月・水・金・土曜日
活動人数：8人(2022年1月時点)

オンラインで集もり武器稽古

対面稽古では徒手による投げ技中心の稽古を行っていましたが、**オンライン稽古では木剣や杖を用いた武器の稽古を中心に行っています**。合気道の武器の動きは徒手の動きと深い関係があるため、技についてより深く理解するとともに、武器の素振りや型の稽古で身体の軸を意識し、より小さい力で相手を投げられるように稽古を重ねました。



部員みんなが
稽古に全集中！

第19期学生局

委員長・竹中 ほのかさん
(小学校教育専攻夜間5年コース3回生)
活動日：毎週火曜日
活動人数：9人(2022年1月時点)

現場の先生に聞く！オンライン教職相談会

本学を卒業して、実際に小学校で働いている先生方を招き、「学生の間にできること」や「先生になって思うこと」などについて話してもらう「**オンライン教職相談会**」を実施しました。**Zoomを活用することで、在学生・卒業生ともにより多くの方に参加していただくことができる企画**になりました。



卒業生参戦で
熱量UP！



5つの自治体から8人の卒業生が駆けつけてくれました

フィギュアスケート部

主将・山田 波那さん
(スポーツ科学専攻3回生)
活動日：水・土曜日
活動人数：3人(2022年1月時点)

インカレでの氷上演技をLive配信

昨年度は中止となった日本学生氷上競技選手権大会(インカレ)の予選を突破し、2年ぶりにインカレの舞台に立つことができました。無観客開催ではありましたが、**大会の様子はフジテレビの動画配信サービスFODで生配信**され、会場に来ることのできなかった家族や、普段観て頂く機会のない方々にも演技を観てもらえることができました。



華麗な演技を
生配信！

Athlete's View

身体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。

大阪教育大学 体育会



JUDO

三浦 竹太郎

みうら たけたろう

教育協働学科スポーツ科学専攻3回生
柔道部
2019年度関西学生体重別柔道選手権大会81kg級 ベスト8

柔よく剛を制す

7歳の頃「相撲のような競技かな?」周りで柔道をしている人も多しやってみよう」と思い立ったのがきっかけでした。実際に始めてみるともちろん相撲とは全然違って、さらに言うと、実は当時なかなか試合で勝てなくて、違う競技が好きだったんです。

でも、中学生になって勝つ楽しさを知ってから、のめり込んでいきましたね。柔道ならではの、小さい体を活かした技をかけて相手を投げて勝つ瞬間が最高に嬉しいです。

大学では、まさか日本代表として国際大会入賞経験もある石川美久先生にご指導頂けるとは思っていませんでした。先生は要所での確に指導してくださりながらも「自分たちで考えて取り組もう」というスタンスなので、柔道部全員が、先輩後輩に関係なくアドバイスしあい、積極的に練習に励んでいます。興味のある方は、ぜひ一度見学に来てください。

今年度は、練習の甲斐あって、柔道部史上初の1部Aリーグ昇格を果たしました。ジャイアントキリングで、「ここでもしっかり戦えるぞ」という姿を見せていきたいです。

柔道はプロスポーツではないので、卒業後は職場の柔道部などに所属して続け、選手として離れた後も子どもたちに柔道の楽しさを伝えていきます。

DATA：柔道部

部員数：16人(2022年1月現在)
戦 績：2018年度全日本柔道団体優勝大会出場
2019年度全日本学生女子柔道優勝大会において3人制でベスト16
2021年度関西学生柔道優勝大会1部Aリーグ昇格
2021年度全日本学生柔道優勝大会出場



TENNIS

西田 賀杏央

にしだ かな

教育協働学科スポーツ科学専攻3回生
硬式庭球部
得意なポジション：前衛
2020年度全日本学生テニス選手権大会 女子ダブルス ベスト8

信頼感から成り立つ ダブルスならではの戦略

(清水・西田) 私たちが本格的にダブルスを組んだのは大学入学後ですが、二人とも京都出身ということもあって、小中高の関西大会などで対戦したり、一時的にダブルスを組んだり、入学前から顔見知りでした。

(清水) 私も西田さんも小さい頃からテニスをしていますが、私にとつてのテニスの魅力は、自分の持ち味を生かしたプレイを楽しむところです。また、ダブルスは前衛後衛の駆け引きが多いのも楽しいですね。西田さんは、ボレーが上手でしっかり前で決めてくれるので、安心して任せられます。

(西田) 逆に清水さんは、ストロークが全国的に見ても飛びぬけて上手いので、安心して後ろを任せて、前で動く戦略を立てられます。あと、彼女は緊張しないので、デュースになったときはほとんど任せています。私はテニスのゲーム性が好きですね。

(清水・西田) 試合するときに、「笑ってプレイしよう」という共通認識を持っています。また、試合が近いときは緊張感をもって練習していますが、テニス部は男女で練習をすることも多くて、アットホームな雰囲気。男子は1部リーグ昇格、女子は1部リーグで勝ち進んでいくことを目標に、頑張っていきたいです。テニスは生涯スポーツなので、大学卒業後もお互いに、運動としても、地域の人との交流としても、続けていきたいと思います。

DATA：硬式庭球部

部員数：21人(2022年1月現在) 創部年：1954年
戦 績：2021年度 王座出場校決定戦 5・6位(女子)
2019年度 関西大学対抗テニスリーグ戦1部4位(女子)
2019年度 関西大学対抗テニスリーグ戦2部4位(男子)





大阪教育大学

附属学校園ウォッチ

Affiliated School | Osaka Kyoiku University



附属高等学校天王寺校舎の生徒が 科学技術のコンテストで受賞し世界大会へ

附属高等学校天王寺校舎2年生の中島里菜さんが、12月11日(土)、12日(日)にオンラインで行われた最終審査を経て、JSEC(Japan Science & Engineering Challenge)の日本ガイシ賞を受賞しました。JSECは、「科学のオリンピック」とも称される世界最大級の科学技術コンテストであるISEF(International Science and Engineering Fair)に日本から出場することのできる提携フェアの一つです。

受賞した中島さんは、神戸大学が行うプログラムに参加し、同大教員の指導を受けて、研究に取り組みました。研究テーマは「水中を落下する2つの液滴が相互に与える影響」で、水の入った水槽に食紅で色を付けた水滴を2滴連続で落として、これらの水滴の「振る舞い」を明らかにしようというもの。着色した赤い水滴は水中を落下しながら広がっていき、その直後にもう1滴赤い水滴を落とすと、1滴目が広がったところに2滴目が到達します。シリンジで1滴1滴正確に水滴を落とし、その動きを精密に800回以上観察するという、根気の必要なこの実験について、中島さんは「水滴の『振る舞い』を見るのが楽しく、大変でしたが、特に苦にはならなかった」と話しました。

審査員からは「1つの液滴の落下の様子は古くから知られている現象だが、2つ目が1つ目のリングをくぐった後、分裂することまで調べた研究はほかに知らない。大変興味深い」と評価されました。

なお、今回の受賞でISEFへの出場も内定し、5月には日本代表として国際舞台のコンテストに臨む予定です。



附属平野小6年生が作成した防災・防犯ポスターが 大阪シティバス530台に掲示

附属平野小学校の6年生が防災・防犯ポスターを作成し、11月5日(金)の「津波防災の日」に合わせて11月3日(水・祝)に大阪シティバスへのポスター贈呈式を大阪府平野警察署にて挙行、11月10日(水)から大阪シティバス530台に1か月間掲示されました。

このポスターは、同校の国語科の授業「防災ポスターをつくろう」という単元で作成したもの。掲示のきっかけとなったのは、同校と長年防災の取組をしてきた平野警察署からの「特殊詐欺を減らす取組として、より見る人の心に残り、意識を高められるようなポスターをつくるために子どもたちの知恵を貸してほしい」という依頼です。これを受け、通常では「防災ポスター」を扱う単元で「防犯」の視野も取り入れました。

児童は、ゲストティーチャーとして招いた平野警察署の永井功一警部補から、防災・防犯について話を聴き、本やインターネット、身近な人へのインタビューなどから情報収集・調査をし、ポスターを作成しました。

贈呈式の最後に、児童は「いつも通学時にバスを利用しているので、こうして掲示されることで、一人でも多くの方が安心安全に過ごすことができるようになってほしい」「自分たちのつくったポスターで、一人でも多くの方が災害時に逃げることで、命を守れたりできたらとても嬉しい」と期待を込めました。



OSAKA KYOIKU UNIVERSITY'S

TOPICS

教職大学院生が台湾の学校でアバターを使用したオンライン授業を実施 01



授業を行う院生と、台湾の子どもが作成したアバターの元素

連合教職大学院で開講している授業「他地域教育実践演習Ⅱ」の一環で、院生が、自身で構想した美術の授業を、台湾国立高雄師範大学附属中学とビデオ会議システムを用いて行いました。他地域教育実践演習Ⅱは、同じく教職大学院で開講する「他地域教育実践演習Ⅰ」において海外の教育について学んだ上で、海外他地域での授業を新たに構想し、実際に英語を用いて授業を行うものです。

高度教職開発専攻教育実践力コース2回生の阪下真美さんは、同校小学部の4年生を対象に、「アバターを作って大阪に行く」と題した40分2コマの授業をオンラインで行いました。

1コマ目の授業では、最初に阪下さんが他の院生とともに制作したアバターの作成方法を説明する動画を視聴した後、台湾の子どもたちが自分の分身となるアバターを作成し、日本側に送付しました。阪下さんは、送られてきたアバターが大阪を観光する動画や画像を制作。2コマ目の授業で、オンラインを通じて台湾の子どもたちとともに視聴しました。その後の質問タイムでは、子どもたちからアバターが旅した場所に関する質問などが投げかけられました。

台湾の子どもたちは、アバター作りに積極的に取り組み、動画や画像の中に自分が作成したアバターを発見すると、歓声をあげる姿も見受けられました。

学生が自衛隊での実習の成果物を柏原市長に報告 02



教育協働学科の学生2名が、自衛隊大阪地方協力本部北東地区隊長の越智勝治3等陸佐から富宅市長に対し『防衛白書』の説明が行われました。その後、ポスターを作成した理数情報専攻と、ダイレクトメールを作成した健康安全科学専攻3回生の上村侑加さんが、それぞれの工夫した点や想いを説明しました。

ポスターは令和4年以降から主に柏原市内に掲出され、ダイレクトメールは2022年7月を目途に八尾市及び柏原市在の高校三年生を対象に順次郵送される予定です。

駒谷さんは「演習を通して自衛隊に対するイメージが変わりました。このポスターを見て自衛隊に興味を持つ人が増えれば幸いです」と述べ、上村さんは「自衛隊の方々は『国を守る』という強い使命感を持ってお仕事をしていることが分かりました。高校生の方にも、説明会で自衛隊の魅力を知っていただきたい」と語りました。

剣道部が全国大会女子団体戦敢闘賞 03



体育会剣道部が、第40回全日本女子学生剣道優勝大会の団体試合において、第5位に入賞し、敢闘賞を受賞しました。同大会には、全国各地の予選を勝ち抜いた56大学が出場し、敢闘賞はそのうちベスト8に輝いた4校に授与されました。

大会当日は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から無観客試合となりました。しかし、出場学生以外の学生らは、キャンパスに参集し、オンラインで配信される試合を観戦することで、モニター越しに出場学生らを応援しました。

12月15日(水)には出場した選手らが栗林学長を訪問し、戦績を報告するとともに、剣道に対する想いなどを述べました。

主将を務めた教育協働学科スポーツ科学専攻4回生の黒木美手さんは、「コロナで昨年度は大会が中止になり、私以外のメンバーは試合経験が無い状態でのスタートでした。それにより、予選から勝つか負けるかの綱渡り状態でしたが、そのおかげでチーム一丸となつて臨むことができ、今回のような良い結果に繋がりました」と振り返りました。

東京パラリンピック銅メダリストを招いて講演会を開催 04



東京パラリンピック男子フルマラソンT12(視覚障がい)で銅メダルを受賞した堀越氏による講演会を開催しました。堀越氏は、「自分を感じ通す」ということー東京パラリンピックメダル獲得に向けた実践と、共生に対する私見」をテーマに、2021年8月に実施された東京パラリンピックでの経験も交えながら、どんな困難な状況でも諦めず信念を貫き通す重要性を語りました。また、希望する対面参加者に各自手指消毒のうえ、会場に持参した実物の銅メダルを触れる機会をつくることで、会場を大いに沸かせました。

講演会の参加者からは、「できないことに目を向けるのではなく、できることに目を向ける。これは障がいなどに関係なく、大切な考え方だなと思いました」「自分を貫き通す」という言葉は私も大切にしていきたいと思います」「これからも壁を乗り越え、パリパラリンピックに向けて頑張ってください。堀越さんに負けたくないような信念を持って頑張っていきたいと思います。応援しています!!」などの感想が寄せられました。



表紙作品：「春の訪れ」

油彩/キャンバス 606mm×727mm 2022年

作者：岩崎仁美 2020年3月 学校教育教員養成課程美術・書道教育専攻小学校コース卒業
2020年4月 大学院教育学研究科芸術文化専攻入学

天遊 特別号 (vol.56) 2022年3月発行

企画・編集・発行／

国立大学法人大阪教育大学広報室

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225

E-mail kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

<https://osaka-kyoiku.ac.jp>

